

連合会各位

壁装施工団体協議会

理事長 小坂田達朗

壁装施工団体協議会 第19期通常総会（書面議決）議案書

【第一号議案】

2021年度の事業報告（案）

自 2021年4月 1日

至 2022年3月31日

1. 業界を取り巻く環境について

2021年度の住宅着工件数は85.6万戸（2020年比5%の増）と5年ぶりの増加となり、減少傾向の続いていた業界には新型コロナ禍にも関わらず、久しぶりの活気が戻った感がある。

この数字に伴い2021年度の壁紙の出荷量は654,232千㎡と前年度比106.2%と大幅な増加となり、業界としては活況に沸いた年になるはずではあったが、残念ながらコロナ感染者数の増加に伴い、余りそういう印象は薄い年に終わったようである。

また壁紙種類別では、塩ビ系92.8%、プラスチック系6.2%となつて、全体の99%を占める状況が引き続き継続している。

一方、壁装施工団体協議会から5団体へ出荷した壁装ラベルの枚数は、合計で2,194,100枚となつて全体で前年比78.5%と大幅にダウンしているが、これは前年に在庫として1団体が大量に購入したためであり、各団体においてはここまで落とした訳ではない。

また不燃ラベル、準不燃ラベルの枚数は例年通り全体の99.99%以上であり、難燃ラベルは1年間で100枚しか出荷されなかった。

	2019年度	2020年度	2021年度
不燃	1,416千	1,402千	1,030千
準不燃	1,389千	1,393千	1,164千
難燃	200	200	100
合計	2,805千 (96.3%)	2,795千 (98.9%)	2,194千 (78.5%)

2. 壁装施工団体協議会における活動

① 日本壁装協会の理事1名の選任

前年に全表連の前会長であった佐藤岩夫氏が理事に選任されていたが、全表連の会長に小林嵩氏が就任したため、小林氏が新理事に選任された。

② 日装連の厚労省認定のテキスト（壁装）の改訂

壁装施工団体協議会の日装連以外の団体でも使用できるように、日装連として約8か月を掛けて「壁装」の改定と厚労省の認定を頂き、2022年4月より頒布を開始した。

日装連より直接4団体へ販売する事とした。

定価：2,000円＋消費税

売値：1,750円＋消費税

③ 日本壁装協会との定期的な会合開催について

我々壁装施工に関わっている5団体に壁装ラベルを発行している日本壁装協会との接点を明確にして、壁装施工団体協議会からの様々な要望等の発信を行う目的で、第1回目を7月に、第2回目を1月に開催しようとしたが、残念ながらどちらも新型コロナ禍により中止となってしまった。

④ 壁装工事を行う我々の目線での新しい事業計画について

この議題に関しても総会において提案をお願いしたが、残念ながらコロナ禍のために十分な議論が出来ず、またもや来年度の課題として先送りとなってしまった。

【第二号議案】

2021年度収支決算（案）

2021年度の収支決算（案）については、財産目録、貸借対照表、損益計算書をご覧いただきたい。

管理ラベルの売り上げは、各団体以下の通りであった。

日装連：1,400,000枚、 内装連：498,000枚、

ジェイシフ：180,000枚、 全表連：104,000枚

テント工連：12,000枚 合計2,194,000枚であった。

新型コロナ禍により充分なる活動が出来なかったけれど、①から④の活動を行って、今期の利益は、2,267,432円となった。

資料1・・・第19期事業報告書

【第三号議案】

2021年度の剰余金処分（案）について

資料の通り、当期末処分利益金4,948,124円の内、準備金に1,000,000円、特別積立金に2,000,000円を積んで、次期繰越利益金を1,948,124円とした。

資料2・・・2021年度剰余金処分（案）

【第四号議案】

監事監査について

7月1日に、壁装施工団体協議会の会議室において、全表連の高橋晃一監事による監査を行い、適正なる決算処理が行われている事の確認が行なわれた。

もう1名の監事である日本内装連の満井秀和氏は、日本内装材連合会の笠井会長のご逝去に伴う葬儀に出席のためやむなく欠席となったが、後日資料をお送りして承認を頂いた。

資料3・・・監事監査報告書

【第五号議案】

2022年度の事業計画（案）

自 2022年4月 1日

至 2023年3月31日

1. 2年ほど経れば収束に向かうだろうと思われた新型コロナウイルス感染による社会の混乱は、2年目に入っても衰える事なく拡大を続け、昨年1年間も誠に残念ながら壁装施工団体協議会として具体的な活動を行う事が出来ない状況であった。

3年目に入り、やっと感染者数は全体的には減少に転じるのではと思われていたが、7月に入ってさらに感染急拡大が続き、全国では20万人を超える感染者がでている。

しかし、政府による行動制限等の指示もなく、第4回目のワクチン接種も進んでおり、いたずらに騒ぐことなく「ウィズ コロナ」の生活と向き合ってきている。

この様な状況下で、壁装施工団体協議会における事業計画にも大きな影響を与えているが、何とか昨年度に行った各事業の継続と、新しい事業への提案を行ってゆきたい。

2. (一社) 日本壁装協会との定期的な打ち合わせについて

我々壁装施工に関わっている5団体として、今後壁協との協力体制による新しい壁装ラベルの供給体制の変革とか、日ごろの壁装ラベルの頒布の際の質問事項に対する答えとか、様々な問題点の解決に向かえる体制を目指してゆきたいと考えている。

しかし、壁協においてもサンゲツの安田社長からバトンタッチを受けたりリカラの山田会長であったが、3月末に退任されてしまい会長職を降りる事となった。

新しく会長職に就いたのはアキレスの柏瀬功次氏である。

新会長は完全に製造分野の出身の人であり、壁紙の販売や工事の知識については未知数ではあるが、事務局同士協力して課題に立ち向かっていきたい。

具体的には現在の申請のデジタル化、特に若い方にも使い易い様にスマホからの作業化を目指す。日装連の神奈川組合から関東ブロック会に提出されたデジタル化案件について、壁協ともども検討を行ってゆく計画である。

3. 壁装施工団体協議会への全室協からの入会申込の件
内装3団体（日装連、ジェイシフ、全室協）の中で、主に鋼製下地工事、ボード仕上げ工事等の施工を行っている（一社）全国建設室内工事業協会から、壁装ラベルを会員に頒布できるようになりたいと、壁装施工団体協議会への入会申込書が令和4年5月30日付で事務局へ提出された。
入会申請に対しての壁装施工団体協議会としての決め事等はないが、ここは多数決を条件にこの提案の審議をお願いしたい。
全室協については、添付の資料をご覧になって頂きたいが、昭和51年に国交省の認可団体として発足し、現在860社の正会員、252社の特別会員にて構成されている。

資料4・・・入会申込書と、全室協の概要（ホームページより）

4. 壁装施工団体協議会の新事務所への移転に伴う、委託業務負担金の増額をお願いの件
2022年4月18日より、日装連並びに壁装施工団体協議会は、旧の新橋の企画ビルから、浜松町262ビルに移転を行った。
それに伴い、現在年間170万円を委託業務負担金として日装連に支払っているが、家賃が1.34倍になったので、単純計算では170万×1.34=227.8万となるが、万円単位を切り捨てて、220万円の委託業務負担金の増額をお願いしたい。

旧家賃 56万円/坪———>新家賃75万円/坪・・・1.34倍
過去は、4月から来年の2月まで15万ずつ、3月は5万で合計170万円であった。
今回は、4月から来年の2月まで18万円ずつ、3月は22万円で合計220万円として支払いたいと考えている。
ただし、今年度はこの総会にて承認を得て、4月～7月は15万、8月～2月は18万、3月は22万となって、合計208万円の予算となる。

5. 日装連の厚生労働省認定のテキスト「壁装」の改定作業について
日装連のテキストではあるが、他の4団体の壁装施工に携わる方々にも充分役に立つテキストと思われるので、日装連より直接他の連合会への販売とする。
定価：2,000円+消費税
売値：1,750円+消費税

6. 新たな壁装施工団体協議会の事業計画について

昨年度も各役員の方々に、壁装施工を行う職人の目線での新しい事業について意見を求めたのであるが、このコロナ禍で十分な意見交換が出来ず、今年の議題に持ち越している。

昨年12月19日に、日本技能士会連合会（日技連）、全表連、日装連の3団体で、技能五輪の種目に内装仕上げ施工を加える為に、壁装施工のデモンストレーションを厚労省と東京都の協力を得て、ビッグサイトにて行った。

デモンストレーションは3団体の一致協力のもと成功裏に終了したが、厚労省との折衝は現在まだ続いていて、技能五輪の種目に採用されるかどうかはまだ未定であり、時間もかかると予想される。

業界では、技能グランプリの方が著名であるが、もともと戦後の日本の新しい技能の発展を目指してスタートしたのは技能五輪であり、受験者は24歳以下の条件が付くが、選ばれる事は大変名誉な事である。

もし技能五輪の種目に選ばれる事があった場合は、壁装施工団体協議会としても、受験者の確保、試験課題の決定、試験架台の作成、関連委員の選任、試験会場の準備等々、多くの方々の協力が無いと開催出来ないと思われるので、是非壁装施工団体協議会としても協力してゆきたい。

この課題をまず新たな事業の一つとして行ってゆきたいと思い、予算として70万円を計上する。

7. パワーポイント資料の充実について

各団体における壁装講習会の講師が、講習会で使用する「パワーポイント資料」であるが、今回のテキスト「新・防火壁装の知識」の改定に伴い資料内のテキストのページ数が変更になっているため、山下研修指導員監修のもと訂正を行った。

しかし、今後も各団体からの質問等に対しても、このパワーポイント資料のさらなる訂正を行って、更にQ&Aについてもそれぞれの疑問に答えてゆく体制を作ってゆく計画であり、調査研究事業費として30万円の計上を行いたい。

【第六号議案】

1～6までの活動を行ってゆく計画であり、その予算措置を盛り込んだ予算案の審議をお願いしたい。

通常総会には、1回30万円、2回開催予定の正副理事長会議には15万円として、理事会・総会費は合計60万円とする。

資料5・・・2022年度予算（案）

【第七号議案】

2022年度、2023年度の役員の選任について

資料6・・・2022年度・2023年度壁装施工団体協議会役員名簿（案）